

# 文化庁「伝統音楽普及促進支援事業」実施報告

北九州支部知啓会 代表 東島啓子



## 1. 応募すべきか

文化庁募集要項を読んで、応募すべきか迷った。北九州支部知啓会という小さな組織でこの大規模な事業を実行できるのか？人的、時間的労力が大きく、忙殺されるという危惧があった。一方、使命感が心に訴える。今まで様々な小中学校でお箏の授業を行ってきたが、子ども達に伝統音楽を伝えていくには学校の先生方への指導が必至と公言していた。ここで私達が逃げては日頃の言動と反する。また、将来的に教育委員会との連携は必要である。

## 2. 書類提出

募集締め切りまで約1カ月。協力体制を構築するため奔走。今まで関わってきた学校の先生方や、人脈を辿ることで、少しずつ道が開けていった。また地元の大学HPから准教授の先生を探して訪問し、助言者になっていただいた。私達自身も暗中模索で、時には的外れもあったが諦めなかった。「NPO」「文化庁」という肩書を利用して私達の実績を伝え、活動を行った。企業の社長、高専学長、大学教授など、様々な方が趣旨に賛同して下さった。NPO本部の先生も寝る間も惜しんで書類準備に協力して下さいました。応募すべきか最初は迷っていたが後には退けなくなったのが事実だ。締め切りぎりぎり書類を郵送した。

## 3. 採択

内示が出たのが事業実施予定日の約1週間前。喜ぶ間もない。講習会の参加者募集、会場手配、学校との連絡。採択内示が出るまで動きがとれなかったため準備不足で、様々な支障があった。しかし、予定通り無事4か所で行えることとなった。合同研究事業は小学校で2校、北九州市中学校音楽教育研究会、福岡県小学校音楽教育研究会。コーディネーター事業は同小学校の保護者、地域の方々を対象とした。時間外に生徒を含めた鑑賞会も開いた。小規模ではあったが、参加者はほとんど満足して下さった。

## 4. 事業実施の効果

「文化庁」「教育委員会」「大学」「NPO」という肩書は予想以上に強力だ。今回はさらに「伝統音楽普及促進支援」という明確な趣旨があったので賛同を得やすかった。だから大いに活用すべきだ。今までは依頼を受けての活動が中心だった。しかし文化庁はHP上で断言している。「今や継承することが危機的な状況になっています。このままでは、気がついたときには消滅している可能性もあります」と。

今回の事業は出発時極めて困難と思われたが諦めずに取り組んだことで状況が好転した。運が味方したのも確かだ。だが、それは一夜にして得たものではなく、長年かけて労を惜みず学校側にも協力してきたからだと思う。結局、日頃が大事だと感じた。たくさん種をまき、少しずつ温めていかなければいけない。この事業が一学校の先生だけでなく、保護者、地域へとさらに広がってほしい。ただのお箏体験事業ではなく、次世代に伝統音楽を伝え継承者を増やし育てる、という使命を共に果たしていきたい。今は前進のみ。多くの方が応援して下さい。全国18団体の内の一つに採択された誇りと責任を持って、必ず成功に結び付けたい。



### 伝統音楽普及促進支援事業（文化庁HPより抜粋）

- 合同研究事業  
楽器演奏及び歌唱を学校の授業で教えるために必要な指導方法について、実演家、教員等が合同で行う研究会、講習会、成果発表会。
- コーディネーター支援事業  
学校の授業で行う場合に必要となる外部講師との調整、諸準備等を実質的に行う調整者（コーディネーター）を育成するための研修会。
- 教材作成事業  
学校の授業で使用する参考書、教則本等を作成するために行う検討会及び作成。



## ～日野原重明先生をお招きしての～

熊本県菊池支部アンサンブル渡里夢 代表 渡 雪美

平成23年10月14日

ねんりんピック熊本大会の協賛行事で「新老人の会」熊本支部の会員によるジョン万次郎の一生を描いた「太平洋に架ける虹」というタイトルの舞台劇があり、私はその効果音楽を担当しました。小学生から満100歳の聖路加国際病院長の日野原重明先生をお招きしての、迫真の演技は超満員の会場の中、本当に素晴らしく感動的な舞台となりました。箏・十七絃・尺八・シンセサイザーのアンサンブルやソロで作曲・編曲・CD作成などメンバーで試行錯誤し、その任を気持ちよく果たすことができました。



聖路加国際病院長の日野原重明先生と  
崇城大学市民会館にて



